

11月の窓

周囲の山々の紅葉がしだいに街にも降りてきて、10月下旬には、本校や近隣の木々も色づき始めました。最初に紅葉したのは、遊学館東側通りの小さい木でした。何の木かと思って見ると、「ヤマボウシ（ミズキ科）」と説明がありました。最初の写真がそれです。次の写真は、本校和風庭園の木々です。本校の木々が色づいた頃には、遊学館東側の木々の葉は、すでに散り始めていました。



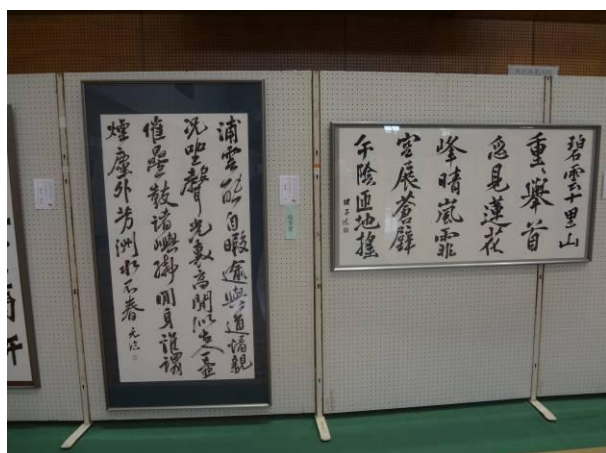
季節は紅葉から落葉の季節と移っていき、少しずつ冬が近づいてきます。俳句の世界では「紅葉」や「紅葉狩」は秋の季語ですが、「落葉」は冬の季語となっています。今年は11月7日が立冬で、暦のうえでは冬となります。

紅葉見や 用意かしこき 傘二本……………蕪村
手ざはりも 紙子の音の 落葉かな……………許六

芸術の秋、文化の秋とも言われますが、10月には毎年「山形県高等学校総合文化祭」が開催されます。今年は、“咲きほこる 文化の花々 置賜の地で”をテーマに、東置賜地区を主会場に開催されました。10月12日（土）に、高畠町総合文化センター「まほら」での総合開会式に出席した後、南陽市民体育館に行ってきました。南陽市民体育館は、美術、書道、写真、科学、新聞の5つの部門の展示場になっているため、多くの作品を見ることができました。

最初の写真は、美術部門で努力賞を受賞した「葛藤」というタイトルの作品です。次の写真は、写真部門で優秀賞を受賞しました。学校祭で書道部が行った書道パフォーマンスを撮影したもので、「ひたむき」というタイトルでした。次の写真の左の作品は、書道部門で優秀賞を受賞したものです。次の写真は、科学部門の発表で、本校科学部の生徒が発表しているところです。研究テーマは「ペルチェ素子を用いた温度差発電の研究」というもので、私にはむずかしくてあまり理解できません

でした。今度、ゆっくり教えてもらおうと思っています。



上山明新館高校で開催された将棋部門と、本校で開催された囲碁部門でも、将棋女子の部での優勝をはじめ、上位入賞を果たしました。演劇部門は、山形県高等学校演劇合同発表会と兼ねて寒河江市で開催され、本校演劇部の「マホロロスの夜」が最優秀賞を受賞し、東北大会へ出場することになりました。この作品は本校演劇部2年生による創作ですが、あわせて創作脚本奨励賞も受賞しました。

県高等学校総合文化祭の後に開催された県高校新聞コンクールで、本校新聞部が優秀賞を受賞し、今年度に続いて来年度の全国高等学校総合文化祭への出場権を得ることができました。

10月には、生徒会にとっても大きな行事がありました。24日の午後、「えがお大作戦～アフガニスタンへ贈るランドセル～」の発送式を行いました。昨年、生徒会役員の一部が、あるNGO団体がランドセルをアフガニスタンに届ける支援活動をしていることをラジオで知り、この活動を始めました。アフガニスタンの子どもたちは十分な教育を受けることができず、女性が出産・育児をしようとしても情報をあまり得られないために、危険な状況にあることから、ランドセルを贈ることで、親が「子どもたちに教育を受けさせたい」と思うようになることを期待して行

ったものです。今年もこの取組を続けることになりましたが、本校生徒の他にも、この取組の趣旨に賛同してくださった多くの方からランドセルを寄贈いただきました。また、国内及び海外の運送経費としてランドセル1個につき2000円ほどの経費がかかることから、学校祭の売り上げの一部をこの費用に充てることとしましたが、それだけでは足りずに、一般の市民・県民の皆様そして多くの企業や団体からも協賛金をいただき、無事発送することができました。ご支援くださった皆様に感謝申し上げます。

最初の写真は、生徒会代表がトラックの運転手にランドセルを手渡ししているところで、次の写真は、ランドセルを運んでくれるトラックと見送る3年生です。

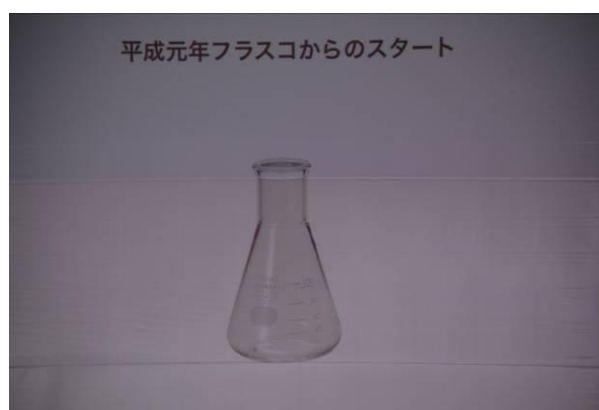


10月29日は、本校の創立記念日でした。記念式典の後、毎年記念講演を行っておりますが、今年は山形大学工学部の城戸淳二先生にお願いしました。講師の人は毎年校長が行っているということで、私も4月に赴任してすぐ講師を選んでほしいと言われました。創立記念日は10月29日と決まっているため、その日城戸先生の日程があいている確率はかなり低いと思いながらメールでお願いしたところ、「その日は大丈夫です。喜んで講演させていただきます。」という返事をすぐいただき、この日を迎えることができました。

城戸先生と言えば有機EL、有機ELと言えば城戸先生と言われるほど、先生は有機ELの権威であります。有機ELは、今でこそデジタルカメラ、携帯電話、スマートフォンのディスプレイそして照明と様々な製品で使われており、今後の開発が一層期待されておりますが、20年ほど前までは、その実用化の見込みが立たない状況にありました。ところが1993年、実現不可能と言われた白色有機ELの開発に成功したのが、城戸先生だったのです。私は2年前、城戸先生の講演を聞く機会がありましたが、それまでは、いわゆるエリートコースを歩んでこられた先生なのだろうと思っていました。ところが講演を聞いて決してそうではないことがわ

かりました。それどころか、高校時代や大学時代は、決して成績優秀な生徒・学生さんではなかったとのことでした。その先生が有機ELの世界的権威と言われるようになるまで努力を続けられていることから、先生には「夢をかなえるために」というタイトルでの講演をお願いしたところでした。ノリのいい大阪弁での語り口に生徒も聞き入り、あっという間の80分でした。その後の質問もたくさん出て、もう少し時間がほしいところでした。

写真は熱く語る城戸先生と、先生が山形大学に赴任された平成元年には、先生の実験に必要な設備や装置は何もなく、あるのはフラスコぐらいだったと話された時のスライドです。



先生は「大学教授のぶっちゃけ話」というタイトルのブログを開設していますが、時には辛口のコメントも見られます。この日の講演のことも何か書いてくださるのか気になって、講演会の翌日さっそくブログを見てみると、「ヤマトウ」という題で、生徒の印象もよかったというありがたいコメントをいただきました。講演会のあとすぐ相談のメールを送った生徒がいたようですが、ていねいなお答えもいただき、ありがとうございました。

先生は、これまでの研究の成果が認められ、先日紫綬褒章を受章されました。ブログに本人も書いておられましたが、恩師、同僚、学生はじめこれまでお世話になった人たちそしてご家族への感謝の言葉であふれていました。おめでとうございます。ますますのご活躍をお祈りいたします。

最後に、今月は校内にある芸術作品として、玄関はいつてすぐのところにある彫刻を紹介します。

高さ2メートル近い作品なので、玄関から入ると最初に目に入るものだと思います。だれの作品で、いつからあるのか、私もずっと気になっていました。作品の下の台座にある青銅銘板の説明によると、山形第一高等学校夜間部の卒業生・吾妻兼治郎さんの作品であることがわかりました。本校は昭和23年、学制改革により、

山形県立山形中学校から山形県立山形第一高等学校となり、昭和25年には、現在の山形東高等学校となりましたが、吾妻さんは、新制の第一高等学校夜間部の第1回卒業生ということになります。吾妻さんはその後東京芸術大学に進学され、芸大卒業後はイタリアに留学し、ミラノ在住の日本人彫刻家として国際的にも高い評価を受けている人であることがわかりました。作品としては、「MU(無)」シリーズや「YU(有)」シリーズが有名で、本校にある作品は「MU-S111」というタイトルになっていて、その下の説明には、1964年の第6回日本現代美術展や、オランダにおけるイタリア野外彫刻展に出品されたとあります。なお、山形市役所前には「MU-1000」という作品が飾られています。

写真には写っていませんが、台座左側にある銘板には、この作品の寄贈の旨を伝える吾妻さんからの手紙の一部が刻まれており、この作品は1984（昭和59）年に寄贈されたものであることがわかりました。

